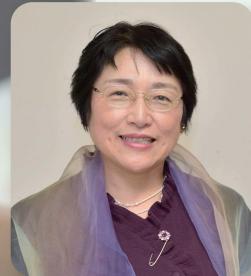


いのちの主人公はあなたです

4月22日 土曜日
午後2時30分～午後5時



講師／内藤いづみ先生

サイサンホール
埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-11-5 KSビル8F

参加費 5,000円

交流会

午後6時～午後8時
大宮ダイニング オモプラッタ
さいたま市大宮区桜木町2-161-2
YKビル2F
TEL.048-796-3934
会費 4,000円

申込先

メール medicare.academy.jp@gmail.com

①氏名 ②所属 ③メールアドレス ④交流会参加の有無
※参加者全員の氏名をご記入ください。

看取りとは何か？
いのちの最終章は、病院から、暮らしに近い
場所へ。

この方針を受けて、方向転換が全国で着々と進んでいる。地域包括ケアもその柱のひとつであろう。医師、訪問看護師、薬剤師、ヘルパーなどの多職種がいのちに関わり、基本的な医療知識を持つて、必要な時に的確な対応をすることも看取りの場面でも求められている。筆者は医師になり立ての35年前から在宅ホスピスケアを実践してきた。
看取りとは何か？本人の望みに耳を傾けみんなで希望を持つていのちに向かい合い、それそれが力を尽くしていくのちを用むこと。それはどこでも可能だが、病気、臓器が主眼になりがちな医療体制から自分を取り戻し、自分の人生いのちを歩みきることを自覚できる暮らしの場こそ、看取りには最適だと思える。住み慣れた場所で、できればご家族もいて。
しかしながら、看取りという言葉が最近軽く使われているようである。この35年で暮らしの環境は大きく変化しているのに、病院から出て別の場所で「よくなっていく」というシステムが強調されているようである。死生観はその社会のいのちの文化だとと思う。病院や施設での死がほとんどであり、最先端医療が可能な時代を生きてきた私たちが、急に暮らしの場で「よくなる」という方向に押されても、まず戸惑う思いが湧くのが自然であろう。いのちの主人公の気持ちの熟成が置き去りにされているようを感じる。
新しい時代の死生観を作るのには時間が必要だ。その先に死生観（いのち）の継承も生まれることを期待する。
私は、いのちに関わる仕事は、ビジネス論だけでは語れないと思っている。ひとつ、ひとつ、の関わりに学びがある。
どうか、自分自身のケアも怠らず、この学びと実践の道を続けて頂きたい。

【参考書籍】
よくわかるWHO方式 がん疼痛治療法 / 武田文和他 (金原出版)
いのちの不思議な物語 / 内藤いづみ (校成出版)

悔いのない看取りを目指して

講師紹介

進行がん、末期がんの人の人生を支える在宅ホスピスケアを30年以上実践している内科医である。地域の高齢の方の終末期も支えている。

80年代にイギリスで学んだホスピスケアを日本に紹介し、日本の文化に根付いた死生観を構築し、がんになっても高齢になっても幸せに生き、幸せな最終章を過ごせる社会になれるように、山梨県での在宅ホスピスケアの実践(家での看取り)と、啓発に献身している。

全国や山梨県内での講演は1000回近いものに及び、専門職だけでなく、一般の方々、また、中学生、高校生、大学生にもいのちについて、ホスピスケア、地域での終末期のいのちの考え方について伝えている。

啓発の一環として、いのちに関する著書も多い。

日本ホスピス在宅ケア研究会の理事を20年近く務め、15年近くホスピス在宅ケア研究会やまなしの代表として、地域で一般市民へ声をかけて、定期的に学習会を開催している。

山梨県青少年協会理事長として、青少年の健全育成にも貢献している。

2016年11月、知事よりやまなし大使の任命を受けた。



内藤いづみ

昭和31年生まれ

福島県立医大卒業

甲府市在住

ふじ内科クリニック 院長

【著書】

- ・最高に幸せな生き方と死の迎え方(オフィス エム)
- ・いのちの不思議な物語(佼成出版)
- ・いい医者 いい患者 いい老後(永六輔氏と共に著 / 佼成出版)など多数

申込先

メール

medicare.academy.jp@gmail.com

①氏名 ②所属 ③メールアドレス

④交流会参加の有無

※参加者全員の氏名をご記入ください。

開催場所

サイサンホール

埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-11-5
KSビル8F



電車でお越しの方

JR大宮駅西口から徒歩10分。
大宮駅西口から出て広い通りを直進。
八十二銀行、武蔵野銀行、ドコモショップがある
十字路(桜木町四丁目)を左折して二つ目のビル。
八十二銀行の隣のビルです。



セミナーの詳しい場所はこち
ら